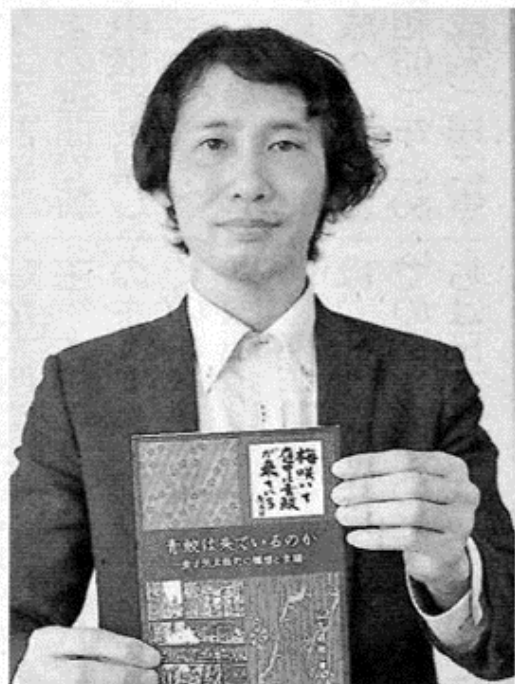


# 兜太さんの俳句解説本 発刊

## 親交あった熊谷市職員・山下さん

昨年2月に98歳で亡くなった金子兜太さんの俳句を解説した「青鯨は来ているのか」を、熊谷市の職員が発刊した。多くの作品の中から兜太さん自身の解説が残る51句を取り上げ、巻末には亡くなる2カ月前の対談の内容も収録した。

著者は市教委社会教育課文化財保護係主任の山下祐樹さん(36)。兜太さんとの親しい交流は2016年2月から。熊谷を詠んだ兜太さんの句碑を市が建てることになり、句碑の解説文を



刊行した金子兜太さんの俳句解説本を持つ山下さん＝熊谷市宮町2丁目

担当したのがきっかけだった。山下さんは翌17年、熊谷の文化遺産をまとめた本「熊谷ルネッサンス」で国宝の妻沼聖天山本殿「歓喜院聖天堂」などと並んで兜太さんの句を収録。対談もし、親交を深めた。

51句は編年体風で7章建て。兜太さん自ら「文字通りの処女作」という旧制水戸高校俳句会の発足句会で詠んだ「白梅や老子無心の旅に住む」から、遺作の「陽の柔ら歩ききれない遠い家」まで。本のタイトルは28句目に出てくる「梅咲いて庭中に青鯨が来ている」からとった。勢いよく咲いて春の到来を告げる梅を、元気なサメに擬した代表的な作品とされる。

A5判63ページで1500円(税別)。熊谷市のオーケイデザイン(048・578・8816)刊。県内の一部書店かアマゾンで。

(坂井俊彦)